

# 医学研究実施のお知らせ

厚木市立病院倫理審査委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

研究の対象となる方（または代理人の方）で、この研究計画について詳しくお知りになりたい場合、この研究に試料や情報を利用することをご了解できない場合は、【問い合わせ先】へご照会ください。

## 【研究課題名】 前頭葉病変で出現する前向性健忘に関する研究

### 【研究の概要】

■研究の目的： 記憶の障害（記憶障害）は、様々な種類が存在し、そのうち時間軸で捉えた場合、ある時点以降の記憶（記銘）が困難な状態を「前向性健忘（anterograde amnesia）」、ある時点以前の出来事を思い出すことができない状態（想起）できない状態を「逆行性健忘（retrograde amnesia）」とされています。この前向性健忘に関連する脳部位は、側頭葉、特に海馬 CA1 領域という部位が指摘されています。他にも、種々の疾患により、損傷脳部位、記憶障害の出現の仕方など様々となっています。しかしながら、前述した前向性健忘の詳細な記憶障害の特性は明らかとされていません。

今回、症候性てんかんにより重度記憶障害を呈した症例を経験しました。本例は前向性健忘を認め、入院後の新しい経験は、毎日「はじめて」経験する出来事となっていました。一方、報酬（快刺激）を記銘時に与えることで、記憶保持時間が延長する結果が得られました。報酬関連領域の一つである前頭葉眼窩部の機能である報酬系が記憶機能、特に前向性健忘に影響を与えると予想します。よって本研究では、この報酬系の関連を含む前向性健忘の特性を明らかにすることを目的とします。また、前向性健忘の障害像を明らかとすることは、前述のとおり、リハビリテーション分野でも対象となることの多い記憶障害に対する有用な治療手段を検討するための一助となると考えます。

### ■研究期間・研究対象

研究期間：承認後から令和4年3月31日まで

研究対象：医師、もしくは担当作業療法士により、記憶障害を疑う症例を対象とします。言語指示に対して、正しい応答が困難な症例、意識障害を伴う症例を除きます。

### ■研究に利用する試料、情報等

情報：年齢、性別、利き手、生活歴、前向性健忘に対する内容

### 【問い合わせ先】

■研究責任者：国際医療福祉大学保健医療学専攻 リハビリテーション学分野

教授 前田真治 電話：0287-24-3016

■研究者：厚木市立病院 リハビリテーション技術科

作業療法士 津嶋かれん 電話 046-221-1570

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。

研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。